

2011 年6月2日 (木)

報道関係者各位

笹川平和財団

【SPF 日米交流プログラム】
ビンラディン殺害後の米国の南アジア政策とは？
カラ・ビュー氏招聘に伴う個別取材のご案内

笹川平和財団 (SPF) は、6月9日～16 日にかけて、米国の南アジア専門家であるカラ・ビュー (Kara L. Bue) 氏を招聘します。現在、ビュー氏はアーミテージ元国務副長官が 2005 年に設立した米国の国際コンサルティング会社「アーミテージ・インターナショナル」の共同経営者として、米国や諸外国の政府・企業に対し、米政府との交渉やビジネス展開戦略にかかわる助言を行っています。

ビュー氏略歴: 専門は米国の南アジア政策、軍備管理問題、平和維持活動など。2001 年～2005 年には、アーミテージ元国務副長官の特別補佐官 (南アジア担当) および国務次官補代理 (地域安定担当) を務める。ブッシュ・クウェイル政権 (1988～1989 年) およびブッシュ・チェイニー政権 (2000～2001 年) への政権移行チームに参画し、次期共和党政権では重職に就くことが期待されている。オバマ政権においても、2月にアフガニスタン・パキスタン担当特別代表に就任したグロスマン元国務次官 (政治担当) らと親交があり、米国の南アジア政策の決定に政権を問わず影響力を持つ。同氏は法学博士でもあり、弁護士としての経験にも長けている。

国際テロ組織アルカイダの指導者ウサマ・ビンラディン容疑者の殺害後、すでに1カ月以上が経過しました。東日本大震災発生に伴う被災地の復旧・復興に追われる日本に対し、世界各国は日本の「内向き志向」が加速化することを懸念しています。4 月に来日したクリントン国務長官や、先月来日したキャンベル国務次官補 (アジア太平洋) の発言にもみられるように、米国は震災後も日本が国際政治の舞台で中心的な役割を果たしていくことを期待しています。私たち SPF は、ビュー氏の招聘を通じて、日本の有識者や市民に対し、米国の南アジア政策やその背景にある戦略的思考を理解する機会を提供し、日本の国際的役割の再考につなげたいと考えています。

日本に滞在期間中、ビュー氏は国内の有識者・政策立案者と積極的に会談するほか、秋田県や広島県を訪問し、現地の学生と交流します。6月 13 日には講演会「ビンラディン殺害後の米国の南アジア政策」(17:30-19:00、於 日本財団ビル2階)を行います。詳細は当財団ウェブ・サイト http://www.spf.org/event/article_6894.html をご参照ください。

ビュー氏への個別取材をご希望の方は、以下の担当までご連絡下さい。

笹川平和財団 日米交流プログラム担当(藤本)

電話: (03) 6229-5426 Fax: (03) -6229-5473 Email: fujimoto@spf.or.jp

SPF 日米交流プログラム: SPF は、2008 年7月から日米両国のオピニオンリーダー交流を実施しています。本取組を通じて、米国の政策決定に強い影響力を持ち、今後活躍が期待される政策関係者や専門家を日本へ招聘し、日本に対する知見を深める機会を提供することにより、長期的な未来を見据えた新たな日米関係の構築に寄与することを目指します。